二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験問題　国語　その一

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

受験番号						

一

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

「口は禍（わざわい）の門」であると同時に、「幸せの門」でもある。

うっかりして不用意にいった言葉が人を傷つけたために、自分の人間関係がつまらなく侘（わび）しいものになってしまう。

［A］、相手の身になって考えていたときに口をついて出た一言が相手の心に響き、そこから豊かな人間関係の展開が見られることもある。

言葉というコミュニケーションの手段は、誰でも小さいときから日々数えきれない回数使ってきている。したがって、皆慣れきってしまっている。子供のときは家庭や学校で使い方を教わったが、大きくなるに従って学習をしなくても不便を感じないので、つい成り行き任せになっている。

しかし、言葉を毎日使っているからといって、必ずしも上手に使っているとは限らない。ときどき立ち止まって、せっかくの手段を効果的に利用しているかどうか確認してみる必要がある。長年の慣れでしていることほど、使い方に自分の癖ができているはずだ。それをチェックして、よい癖は続けていき、悪い癖はやめる。

また、学習をして、よい癖を身につけるようにするのである。慣れきってしまったことについては「慣れるより習え」という考え方が必要だ。

まず、①言葉はもろ刃の剣であることを、心に銘記（めいき）しておく。同じ言葉でも使い方によって、その効果はプラスにもなればマイナスにもなる。使うときの状況や ⓐハイケイをよく考えてから使わないと、思いがけない結果を招来（しょうらい）することにもなる。あるとき、よい結果になった言葉であるからといっても、ほかの場で使ったら逆効果になるかもしれない。その都度、よく考えてから使う必要がある。

②言葉は生き物である。口から出た後は、その言葉を発した人の意図とは異なったはたらきをするかもしれない。善（よ）かれと思っていったことが相手に悪く解釈されることもある。

そんなときにも、自分が発した言葉であるから自分が責任を取る姿勢を堅持するべきだ。誤解を招いてしまったとき、誤解をした相手に責任の ⓑイッタンを押しつけ、自分に責任はないとするのは、［B］のすることだ。

口先だけでいくら美辞麗句を連らね、人のことを思っているようなことをいっても、心構えが正しくなかったら、ⓒソクザに化けの皮がはがれる。

話をする相手を、自分と同じ人間であるとして尊重する気持ちが不可欠である。相手の人間としての尊厳を片時も忘れないで相対すれば、一つひとつの言葉を、相手も素直に受け取ってくれる。

（山﨑武也『気くばりがうまい人のものの言い方』による）

問一　二重傍線部ⓐ～ⓒのカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。

問二　波線部「美辞麗句」の正しい意味を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　努力を後押しして応援する言葉　　イ　自分のいいところばかり称賛する言葉

ウ　表面的には立派に聞こえる言葉　　エ　心の底から出る嘘いつわりのない言葉

問三　空欄［A］・［B］に入る最も適切な語句を次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

［A］の選択肢

ア　果たして　　イ　一方　　ウ　つまり　　エ　たとえば

［B］の選択肢

ア　卑怯者　　イ　人格者　　ウ　初心者　　エ　傍観者

問四　傍線部①「言葉はもろ刃の剣である」とありますが、それはどういうことですか。「もろ刃の剣」がたとえている内容を明らかにして三十字以上、四十字以内で説明しなさい。

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験問題　　国　語　　その二

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

問五 傍線部②「言葉は生き物である」とあるが、筆者はなぜ「言葉」を「生き物」と表現しているのですか。その理由の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 普段から言葉でコミュニケーションをしている私たちにとって、言葉は慣れ親しんだものであるから。
イ 言葉は時代の変化とともに意味や使い方も変わっていくものであり、生き続けているから。
ウ 言葉には様々な意味があり、状況や前後の文脈によってその意味を確定し、解釈しているから。
エ 自分が発した言葉を相手が解釈するとき、必ずしも自分の想定通りになるとは限らないから。

問六 本文の内容の説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言葉は自分の人間関係に不利益をもたらすこともあれば、豊かな人間関係を構築するきっかけになることもある。
イ 大人になると言葉の学習をしなくても不便を感じず、知らず知らずのうちに言葉遣いに癖がついてしまう。
ウ 自分の言葉遣いが適切かどうかをときどき確認し、癖のない言葉遣いになるように学習し、慣れる必要がある。
エ 自分の発言を相手に受け止めてもらうには、話す相手を尊重する精神を持っておかなければならない。

受験番号						

二

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

数日後、①父からバスの回数券をもらった。「十回分で十一回乗れるから、こっちのほうが得なんだ。」――十一枚綴（つづ）りが、二冊。

「だいじょうぶだよ。」父はコンビニエンスストアの弁当をレンジに入れながら、少年に笑いかけた。「これを全部使うことはないから。」

「ほんと？」

「ああ……まあ、たぶん、だけど。」

足し算と割り算をして、カレンダーを思い浮かべた。再来週のうちに使いきる計算になる。

「ほんとに、ほんと？」

②低学年の子みたいにしつこく念を押した。父は怒らず、③かえって少し申し訳なさそうに「だから、たぶん、だけどな。」と言った。

電子レンジが、チン、と音をたてた。

「よーし、ごはんだ、ごはん。食べるぞっ。」

父は最近おしゃべりになった。なにをするにもいちいち声をかけてくるし、ひとりごとや鼻歌も増えた。

お父さんもⓐ寂しいんだ、と少年は思う。

回数券の一冊目を使いきる頃には、バスにもだいぶ慣れてきた。

「毎日行かなくてもいいんだぞ。」

父に言われた。「宿題もあるし、友達とも全然遊んでないだろ？　忙しいときや友達と遊ぶ約束したときには、無理して行かなくてもいいんだからな。」――それは病室で少年を迎える母からの伝言でもあった。

母は自分の病気より、少年のことのほうをずっと心配していた。自転車でお見舞いに行きたくても、交通事故が怖いからだめだと言われた。バスで通っていても、病室をひきあげるときには必ず「降りたあと、すぐに道路を渡っちゃだめよ。」と釘を［A］のだ。

「だいじょうぶだよ、べつに無理してないし。」

少年が笑って応（こた）えると父は少し困ったように「まだ先は長いぞ。」とつづけた。

「昼に先生から聞いたんだけど……お母さん、もうちょっとかかりそうだって。」

「……もうちょっと、って？」

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験問題　国語　その三

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

「もうちょっとは、もうちょっとだよ。」
「来月ぐらい？」
「それは……もうちょっと、かな。」
「だから、いつ？」
父は少年から［B］をそらし、「医者じゃないんだから、わからないよ。」と言った。

二冊目の回数券が終わった。使いはじめるとあっけない。一往復で二枚ずつ――一週間足らずで終わってしまう。
まだ母が退院できそうな様子はない。
「回数券はバスの中でも買えるんだろ。お金渡すから、自分で買うか？」
「……一冊でいい？」
ほんとうは訊きたくない質問だった。父も答えづらそうに少し間をおいて、「ⓑ面倒だから二冊ぐらい買っとくか。」と妙におどけたⓒ口調で言った。
「定期券にしなくていい？」
「なんだ、おまえ、そんなのも知ってるのか。」
「そっちのほうが回数券より安いんでしょ？」
定期券は一か月、三か月、六か月の三種類ある。④父がどれを選ぶのか、知りたくて、知りたくなくて、「定期って長いほうが得なんだよね。」と言った。
「ほんと、よく知ってるんだなあ。」父はまたおどけて笑い、「まあ、五年生なんだもんな。」とうなずいた。
「……何か月のにする？」
「お金のことはアレだけど……回数券、買っとけ。」
父はそう答えたあと、「やっぱり三冊ぐらい買っとくか。」と付け加えた。

（重松清『バスに乗って』による）

問一　二重傍線部ⓐ～ⓒの漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

問三　傍線部①「父からバスの回数券をもらった」のは、何を行う目的でもらったものですか。解答欄の「～ため」に続く形で、十五字以内で答えなさい。

問二　傍線部②「低学年の子みたいにしつこく念を押した」を文節で区切った場合、文節はいくつありますか。漢数字で答えなさい。

問四　空欄［A］に入る適切な言葉を、ひらがな四文字で答えなさい。

問五　傍線部③「かえって少し申し訳なさそうに」とありますが、父はなぜ申し訳なさそうにしたのですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア　母親の退院の時期に関して、少年に嘘をついてしまったから。
イ　母親が早く退院できることを期待させるような発言をしてしまったから。
ウ　少年がしつこく質問してくることに対して、面倒だと感じてしまったから。
エ　母親が入院していることを少年に知られないように黙っていたから。

問六　空欄［B］に入る適切な言葉を、漢字一字で答えなさい。

受験番号						

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験問題　国語　その四

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

問七 傍線部④「父がどれを選ぶのか、知りたくて、知りたくなくて」とありますが、このように思う「少年」の気持ちを次のように説明しました。空欄Ⅰ・Ⅱに当てはまる最も適切な語句を後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

父が答える定期の期間によって、母がいつ退院するか分かるので、それを（　Ⅰ　）気持ちだが、もし入院が長引くことを聞かされると（　Ⅱ　）とも感じる気持ち。

ア　知りたくない　　イ　確かめたい　　ウ　怖い　　エ　面倒　　オ　助けたい

受験番号						

三

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

昔、近江国に伊吹の弥三郎と申して※1ゆゆしき人ありけり。其の父は弥太郎殿と申して、古より代々この伊吹山の主にてぞ侍りける。又、同じき国に大野木殿と申して名高き人侍りけり。その人、最愛の姫君を持ち給ふ。※2みめかたち①美しくおはしければ、すなはちこの姫君を迎えて弥三郎殿の妻とさだめて、※3比翼の語らひをなし給へり。

此の弥三郎と申すは、みめかたち清やかに器量事柄いかめしくおはしけるが、幼き時より酒を好みて多く飲み給へり。※4おとなしくなり侍るに従つて次第に多く飲みけるほどに、常に酒にのみ酔ひ浸りて心狂乱し、※5そぞろなることをのみ②言ひ散らし、または恐ろしきことどもをぞし給へりける。

（『伊吹童子』による）

【注　釈】

※1ゆゆしき人……勢力を持った人。
※2みめかたち……顔立ちや容姿。
※3比翼の語らひ……夫婦仲睦まじい関係。
※4おとなしくなり侍る……「大人びていく」の意。
※5そぞろなること……わけのわからないこと。

問一 二重傍線部「すなはち」を現代仮名遣いに直しなさい。

問二 傍線部①「美しく」の意味として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 幼く　　イ 不釣り合いに
ウ かわいらしく　　エ 大人びて

問三 傍線部②「言ひ散らし」の主語を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弥三郎　　イ 弥太郎殿　　ウ 大野木殿　　エ 姫君

問四 弥三郎の容姿や人柄がわかる部分を本文から二十三字で抜き出しなさい。

問五 本文の説明として適切でないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 弥太郎と大野木殿は、ともに近江国の人でその土地の有力者だった。
イ 弥三郎は大野木殿の娘である姫君の容姿に惹かれ、すぐに姫君と結婚した。
ウ 弥三郎は幼い時からお酒が好きで、たくさん飲んでいた。
エ 弥三郎は大人になると酒飲の量が増え、姫君に暴力を振るうようになった。

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験問題　　国　語　　その五

※ 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。すべての問題において句読点も一文字に数えます。

四　後の各問いに答えなさい。

問一　書き下し文を参考にして、次の①～③の各漢文にそれぞれ返り点をつけなさい。（送り仮名は不要）

①　恨別鳥心驚。　（別れを恨んでは鳥にも心を驚かす。）

②　孔子教王礼。　（孔子王に礼を教ふ。）

③　辞家見月両回円。　（家を辞してより月の両回円かなるを見る。）

問二　次の①・②の各漢文をそれぞれ書き下し文にしなさい。

①　項王軍壁垓下。

②　魚吾知其能泳。

受験番号						

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内1期入学試験解答用紙　国　語

解

一

問一
ⓐ
ⓑ
ⓒ

問二
問三
A
B

問四（35、20、5／40、25、10／30、15）

問五

問六

二

問一
ⓐ　しい
ⓑ
ⓒ

問二（5、10、15）　ため。

問三

問四

問五

問六

問七
Ⅰ
Ⅱ

三

問一

問二

問三

問四（20、5、10、15）

問五

四

問一
① 恨別鳥心驚。
② 孔子教王礼。
③ 辞家見月両回円。

問二
①
②

受験番号

二〇二三年度　興譲館高等学校　県内１期入学試験解答用紙　国語

解

一

問一 ⓐ 背景　ⓑ 一端　ⓒ 即座

問二 ウ

問三 A イ　B ア

問四 言葉は使い方によって、自分に利益も不利益もたらしうるものであるということ。

問五 エ

問六 ウ

二

問一 ⓐ さびしい　ⓑ めんどう　ⓒ くちょう

問二 入院する母親のお見舞いに行くため。

問三

問四 さされる

問五 イ

問六 目

問七 Ⅰ イ　Ⅱ ウ

三

問一 すなわち

問二 ウ

問三 ア

問四 みめかたち清やかに器量事柄いかめしくおはしけるる

問五 エ

四

問一
① 恨レ別鳥心驚。
② 孔子教二王礼一。
③ 辞レ家見二月両回一円。

問二
① 項王の軍垓下に壁す。
② 魚は吾其の能く泳ぐを知る。

受験番号